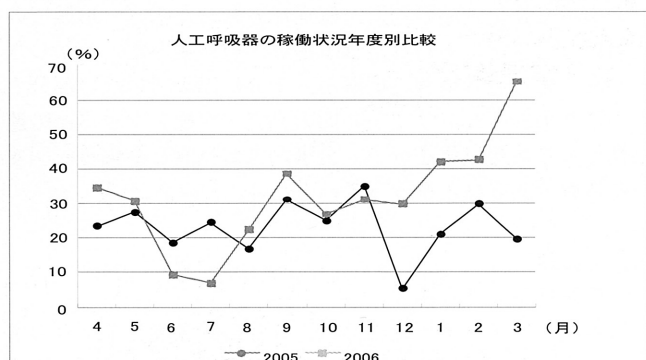


病院開設時は臨床工学技士1名の常勤であったが、2005年9月より済生会熊本病院臨床工学部より週2日の派遣で業務を行っている。

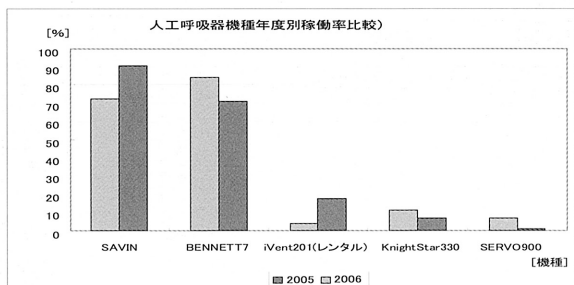
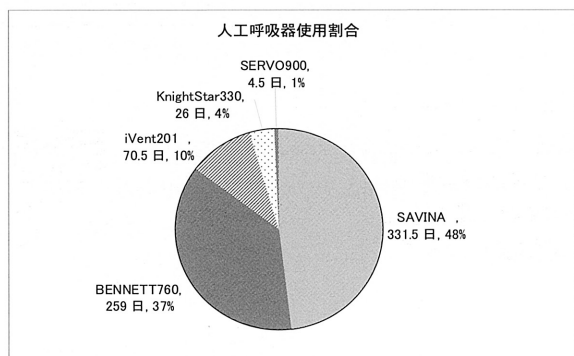
1. ME 機器中央管理業務

現在週2日の派遣でME中央管理室の業務を行っている。主な業務は機器の貸し出し、保守点検整備及び修理である。

中央管理しているME機器は、人工呼吸器8台（マスクベンチレーションの機器1台及びレンタル器2台含む）、輸液ポンプ18台、シリンジポンプ6台、経管栄養ポンプ3台、小型シリンジポンプ6台、低圧持続吸引機6台、超音波ネブライザー4台、除細動器4台、対外式ペースメーカー2台、その他ジェットネブライザー、セントラルモニター、ベッドサイドモニター、自動血圧計、パルスオキシメーター等がある。



平均稼働率31.7% (前年度23.2%)



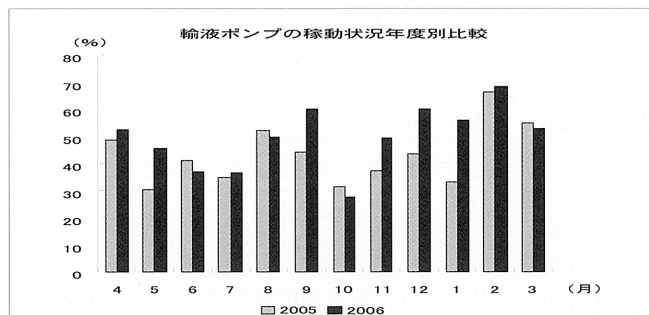
人工呼吸器は「BENNETT760」2台と「Svina」の計3台が本院の主力機種といえる。

また、レンタル器である「iVent201」はマスクベンチレーションとしての利用のほか、挿管になる場合にも機種変更の必要が無く、コンパクトであるため需要が増加しつつある。

レンタル器は、定期点検や消耗品も基本料に含まれ、故障

の際は即入替えが可能であり、必要な期間、最新のヴァージョンで利用できる為、現在の稼働状況において需要に柔軟に対応できるレンタル器の利用が今後も有効であると考えられる。

SERVO900は、圧縮空気のアウトレットが必須な為、病棟で使用できない場合が多々見受けられ稼働率が低下したものだと思われる。



平均稼働率49.6% (昨年度45.9%)

輸液ポンプは、稼働率40%を下回った月は6・7・10月で、60%を上回った月は9・12・2月であった。また、50%を超える稼働率の月が6ヵ月あった。2006年度に関しては、適正台数で有効な利用が出来た。

しかし、週2回の派遣勤務であることと、手術件数の増加を考慮し、次年度は輸液ポンプ5台の増台を予定しているが、需要によってはその他のポンプの台数も検討が必要である。

ポンプ機種の統一化については、輸液ポンプ全てTE-161シリーズに更新し、シリンジポンプも全てTE-331シリーズに更新したことにより、全館の機種統一ができ、操作上のリスク低減が図られた。

2. 病棟機器の修理整備業務

機器の修理調整においては、中央管理機器のみではなく病棟管理の物品も行っている。

2006年度の依頼状況は酸素流量計が最も多く、次いで自動血圧計であった。

昨年度より除細動器の定期的な点検を開始した。

3. 人工呼吸器業務

人工呼吸器が必要な緊急時は機器を選定し、ベッドサイド配置及び呼吸器設定の補助を行った。

定期的な回路・フィルタ交換は当然であるが、不穏などがある場合は回路の構成の変更も行うなど工夫している。

4. ペースメーカー業務

対外式ペースメーカーの電極挿入時に、ジェネレーター操作及びサポートを行っている。

5. 手術室業務

麻酔器は定期的なメンテナンスの必要性があり、昨年度より定期的に点検を行っている。

要望があれば手術の補助も行っている。

6. ME 教育・指導

システム及び関連設備の原理、構造、適切な使用法、起こりうるトラブルとその処理、安全対策等に関して、随時情報提供を行った。

トラブルの報告があった際は、迅速に対応・原因追求して返答してきた。また、その情報をME中央管理室に蓄積して、メーカーと協議している。